

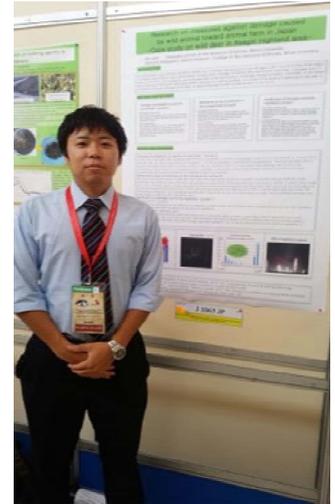
## 第 16 回 AAAP 大会参加報告

日本大学大学院 生物資源経済学専攻  
石井慧

昨年 11 月 10 日～14 日にインドネシア・ガジヤマダ大学にて開催された、第 16 回 AAAP 大会に参加し、「Research on measures against damage caused by wild bird and animal toward animal farm in Japan -Case study on wildness deer in Asagiri Highland area-」という題目でポスタープレゼンテーションを行いましたので、その模様をご報告させていただきます。

### 1) 発表の概要

「Research on measures against damage caused by wild bird and animal toward animal farm in Japan -Case study on wildness deer in Asagiri Highland area-」でポスターにて発表を行いました。現在日本では年間 230 億以上の農作物被害が出ています。特にシカによる被害が著しく、効果的な対策が期待されています。我々は、過去に静岡県朝霧高原において酪農家への被害に関するアンケート調査を実施し、半分以上の酪農家に被害が出ていることがわかりました。そこで私は、静岡県朝霧高原における野生シカによる被害の実態を知るために、牧草の収量調査、センサーカメラによるシカの行動調査及び出没頭数・時間の調査、忌避剤によるシカ対策の有用性実験を行いました。その結果、被害率は前年に比べ 10%も増加しており、シカは日没から日の出にかけて山から降り牧草地内で菜食などを行っていることがわかりました。また、下山ルートの特定も成功しました。忌避剤に関しては、牧草地では菜食されなかったのに対し、付属農場内では菜食されていました。これは、野生下においてリスクを犯す必要はないため、忌避剤は一時的なものであることが示唆されました。



### 2) 発表の状況

最終日の 11 月 14 日の 11 時よりポスター発表を始め、多くの方々にご覧いただきました。特に中国の方々や現地の学生が多かったです。また、内容については、多くの方が忌避剤について興味を示していました。他国においては、おそらく忌避剤を使うよりも狩猟などの物理的な方法が主流のためか、忌避剤を用いての対策はあまり実施されていないことがわかりました。

### 3) 大会の感想

今回、初めての国際学会参加ということで、うまくいくか不安でしたが、ポスター発表もトラブルもなく無事に終えることができました。私自身、あまり英語が得意な方ではなかったのですが、カタコトでのコミュニケーションでも、身振り手振りで相手に伝えることができ、少し自信ができました。また、私が一番驚いたこととして、現地の学生たちとの出会いがあります。彼らは、当たり前のように英語を話しており、日本では見慣れない光景に驚きました。海外特に、日本にとっても興味を持っており、日本について多くの質問をされました。学生の多数が、日本に行きたいと言っていたのが印象深いです。彼らの純粋で何事にも積極的に真剣な態度に強く感銘を受けました。親しくなった学生から、インドネシアの大半がお世辞にも裕福ではないが皆勉強が好きで多くのことを学んでいると語っていました。裕福すぎることは、逆に向上心を削いでしまっているのではいかと改めて考えさせられました。私は、今回多くのことを学び、とても実りの多い学会参加でした。改めて、今回参加のご援助をいただいた日本畜産学会や同行させていただいた先生方に感謝を申し上げます。

